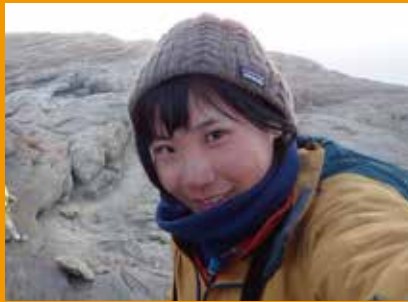


ペンギンの研究者に インタビュー



わたなべ ひな 渡邊 日向さん

プロフィール

- 神奈川県出身。総合研究大学院大学在学中。専門は動物行動学。
- 第60次南極観測隊に参加。
- 好きなペンギンはキングペンギン。

(2019年7月現在)



どうしてペンギンの研究に興味をもったのですか？
ペンギンの魅力を教えてください。

もともと南極に対して漠然としたあこがれのようなものがありました。高校生の頃に、南極は温暖化など環境変化の影響を強く受ける場所として注目されていることを知り、このことがきっかけで南極研究にも興味を持つようになりました。そして、とくに生き物好きだったことから、ペンギンなど南極生物の生態の研究を通して、南極生物の温暖化など環境変動に対する応答や影響について考えたいと思いペンギン研究を始めました。なかでも南極大陸の沿岸で繁殖するアデリーペンギンは、南極の環境変動の指標として注目されており、とてもおもしろい研究対象です。



ご自身の研究内容を教えてください。

バイロギングを使ってペンギンの行動を調べています。なかでも、わたしはアデリーペンギンが氷の下でえさを取るときの行動に注目しています。科学館内のペンギンビデオの映像はもうご覧になりましたか？泳ぎながらとても上手にオキアミを取っていますね。このように、えさを取るのが上手なアデリーペンギンですが、いったいどのように氷に覆われた海の中を動き回り効率よくえさを取っているのでしょうか。わたしは、水中でアデリーペンギンがどの方角にどのくらい泳いだかなど潜水軌跡を詳しく調べ、海氷という制限のある環境への適応を可能にした究極のえさ取り戦略を明らかにしたいと思い研究を進めています。



【体重測定が終わったヒナにフリップパーバンドを装着中】



子どもたちにむけてメッセージをお願いします。

わたしたちの研究グループは、ペンギン自身に取ってきてもらったデータを通して、本来なら直接見ることのできなかったペンギンワールドを見ています。そのペンギンワールドは普段水族館でみるようなのんびりとしたペンギンのイメージとは遠く離れた驚異的なものです。南極で陸地をヨタヨタ歩き、ときたま小石につまずいてポテッと転ぶ姿を見ていると「本当に同一ペン物かな…」と不思議に思うこともしばしばですが、それほど海でのペンギンの潜水技術は巧みで素晴らしいものです。今回の展示が、海の中（だけ？）ではカッコいいペンギンを見直してもらい、南極とペンギン研究のおもしろさを少しでも知ってもらえるきっかけになると嬉しいです。